

平成26年度 決算報告書
(第11期)

国立大学法人鳥取大学
(単位：百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)	備 考
収入				
運営費交付金	10,982	11,905	922	(注 1)
施設整備費補助金	730	728	△2	(注 2)
うち補正予算による追加	222	222	-	
補助金等収入	174	1,147	973	(注 3)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	51	51	-	
自己収入	23,273	23,930	657	
授業料、入学料及び検定料収入	3,598	3,552	△46	(注 4)
附属病院収入	19,199	19,807	607	(注 5)
雑収入	475	571	95	(注 6)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,412	1,580	167	(注 7)
長期借入金	173	155	△18	(注 8)
目的積立金取崩	1,219	602	△617	(注 9)
計	38,019	40,101	2,082	
支出				
業務費	33,606	34,156	549	
教育研究経費	14,902	15,580	678	(注 10)
診療経費	18,704	18,575	△128	(注 11)
施設整備費	955	935	△20	(注 12)
うち老朽対策等基盤整備事業	222	222	-	
補助金等	174	1,147	973	(注 13)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,412	1,389	△23	(注 14)
長期借入金償還金	1,868	1,861	△7	(注 15)
計	38,019	39,490	1,471	
収入－支出	-	611	611	

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、業務達成基準を適用した事業、退職手当等にかかる前年度からの繰越額が措置されたこと及び予算段階では予定していなかった国際乾燥地研究教育機構の設備整備等に伴う特別運営費交付金が交付されたことにより、予算金額に比して決算金額が922百万円多額となっています。
- (注2) 施設整備費補助金については、事業計画が変更されたことにより、予算金額に比して決算金額が2百万円少額となっています。
- (注3) 補助金等収入については、予算額に計上していなかった補助金の受入により予算金額に比して決算金額が973百万円多額となっています。
- (注4) 授業料、入学料及び検定料収入については、検定料が減少したことから、予算金額に比して決算金額が46百万円少額となっています。
- (注5) 附属病院収入については、主として外来患者数の増加及び外来診療単価が上昇したことによる増収により予算金額に比して決算金額が607百万円多額となっています。
- (注6) 雑収入については、主として科学研究費補助金間接経費収入の増加により予算金額に比して決算金額が95百万円多額となっています。
- (注7) 予算段階では予定していなかった民間等からの受託研究等の獲得に努めたため、予算金額に比して決算金額が167百万円多額となっています。
- (注8) 長期借入金については、事業計画の変更による借入額の減少により、予算金額に比して決算金額が18百万円少額となっています。
- (注9) 目的積立金取崩については、事業計画が変更されたことにより、予算金額に比して決算金額が617百万円少額となっています。
- (注10) 教育研究経費については、(注1)に示した収入の増加に伴い、執行額も増加したために予算金額に比して決算金額が678百万円多額となっています。

- (注11) 診療経費については、主として人事院勧告の影響による人件費への流用により、予算金額に比して決算金額が128百万円少額となっています。
- (注12) (注2)に示した理由等により、予算金額に比して決算金額が20百万円少額となっています。
- (注13) (注3)に示した理由等により、予算金額に比して決算金額が973百万円多額となっています。
- (注14) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、受託財源および寄附金財源に係る執行額の減少のため、予算金額に比して決算金額が23百万円少額となっています。
- (注15) 長期借入金については、金利変更等償還計画の変更により予算金額に比して決算金額が7百万円少額となっています。

○「産学連携等研究収入及び寄附金収入等」のうち、前年度よりの繰越額からの使用額159百万円。

○決算額と損益計算書上の計上額との差異について

教育研究経費、診療経費の決算額と損益計算書上の計上額との差の主なものは、固定資産取得に関わる支出であります。